南郷小

自ら考え、進んで表現する児童の育成

～話す・聞く・話し合う力を育てる授業づくり～

（３年計画の３年次）

校長　　乗松　朋博

１　研究主題について

本校では、教育目標に「豊かな心をもち、たくましく生きる子」、努力目標に「すすんで学習する子（知）」を掲げ、主体的に学習に取り組む児童の育成を目指している。また、学校目標を「学びに向かう力、思いを伝える力の育成」とし、基礎学力の定着を土台にしながら、主体的に学ぶ力や表現力を身に付けさせることを目標としている。

昨年度の研究では、算数科の授業実践において、発達段階に応じた課題設定や課題提示（ＩＣＴ機器を活用した「見える化」）、発問などの工夫によって、児童が課題意識をもって進んで学習に取り組むことができた。また、必要な場面で効果的な数学的活動を取り入れることで、問題解決の仕方を一人一人に身に付けさせることができた。

令和２年度のＣＲＴ学力検査における算数科の結果では、どの学年もおおむね全国比を上回っており、観点別では、「主体的に取り組む態度」が一番高い得点率を示し、児童の学習への関心・意欲の高さがうかがえた。しかし、「思考・判断・表現」に関わる問題の得点率は他教科よりも低く、物事を筋道立てて考えたり、自分の考えを整理したり、分かりやすく説明したりする力が十分に身に付いていないことが分かった。

そこで、今年度は、昨年度十分に行えなかった「交流活動」を充実させ、話す・聞く・話し合う活動を軸とした表現力の育成に力を入れたいと考え、本主題・副題を設定した。まず、表現するための準備段階として、数学的活動を効果的に取り入れ、児童一人一人に考えを十分にもたせたい。更に、「学び合うための学習ルール（話し方・聞き方・話し合い方）」の習慣化を図りながら、双方向に働く交流活動を行い、友達と考えをつないだり深めたりする楽しさを味わわせたい。このように、児童が自分の考えを明確にし、伝える大切さや表現する楽しさを実感することで、主体的に学ぶ児童を育成できると考える。

２　研究のねらい

主体的に学び、進んで表現する児童の育成を図るための授業づくりの在り方について、算数科の授業を通して明らかにする。

３　研究仮説

算数科の授業において、一人一人が課題意識をもって学習に取り組み、考えをもつための指導を工夫し、「話す・聞く・話し合う」の習慣化を図りながら交流活動を展開させることで、自ら考え、進んで表現する児童を育成することができる。

４　研究内容

(1) 考えを明確にするための手立て

ア　言葉、数、式、図、表、グラフなどを用いて、自分の考えを整理し明確にするための活動や場の設定、指導の工夫。

(2) 考えを交流させるための手立て

ア　「学び合うための学習ルール」を基本とした話し方や聞き方・話し合い方の習慣化。

イ　目的を明確にした交流活動の工夫。

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者・題材名・授業の概要
６	３０	第１回授業研究（２学年） 授業者：教諭　石木田 美保子（Ｔ１）、講師　上田 公子（Ｔ２） 題材名「１０００未満の数の表し方」 (授業の概要) 生活に身近な買い物の場面を問題として取り上げることで、児童は興味をもって学習に取り組むことができた。また、児童に答えを選択させることで全員が自分の立場をはっきりさせ、根拠を明らかにしながら話そうとする意欲にもつながった。更に、３人一組になり、売る人、買う人、見守り役を交代しながら「買い物ゲーム」を行うことで、分かりやすく話したり、大事なことを落とさずに聞いたりする力につなげることができた。
７	１４	第２回授業研究（４学年） 授業者：教諭　渡邊　尚美（Ｔ１）、講師　上田 公子（Ｔ２） 題材名「小数の大小」 (授業の概要) 本時の問題に入る前に、復習や練習問題を繰り返し行い、解き方のパターンを確認することで、児童は見通しと自信をもって課題に取り組み、進んで考えることができた。また、自力解決の場面で、解決方法２つに絞り、選択して考えさせたことで、同じ答えでも多様な考え方があることに気付かせることができた。
１１	１５	第３回授業研究（５学年） 授業者：教諭　工藤　真子　題材名「高さが外にある三角形の求積の仕方」 指導助言：総合教育センター副所長兼主任指導主事　松橋　祐哉 先生 (授業の概要) 自力解決の前に課題解決の方法について全体で考えさせ、その中から自分が解けそうな方法を選択させたことで、児童は、見通しをもって学習に取り組むことができた。また、同じ方法で解いた人同士でグループを作り、決められた３つの条件（算数用語）を使って説明させたことで、児童が相手意識をもち、進んで交流することにつながった。

(2) 一般研修

月	日	内容・講師
４	３０	特別な支援を要する児童の共通理解のための研修
７	１２	一人一台端末に関する研修
８	２０	プログラミング教育に関する研修
１１	２４	ＪＳ研修会（授業公開）
１２	１	特別支援教育に関する研修(あおぞら学級、わかくさ学級授業公開)
２	１６	研修報告会、生活科・総合的な学習年間指導計画の修正

６　研究の成果

(1) 場面に応じて教師が様々なしかけを準備することで、児童は進んで考えることができるようになった。また、赤白帽子やネームプレートを使うことで個々の立ち位置が明確になり、「自分の考えを伝えたい。」「友達の考えを聞いてみたい。」という表現意欲につながった。

(2) 答えの選択肢や考える方法の選択肢を与えたことで自分の考えに自信がもてない児童に見通しや安心感をもたせることができた。これは、本校児童の実態に適した手立てであった。

(3) 児童の発達段階や単元の特性に応じて、交流活動の形態や方法を工夫することで、児童の話し方や伝え方に成長が見られた。周りと確かめ合いながら、安心感と自信をもって取り組む児童が増えた。

７　研究の課題

(1) 表現意欲や表現力にはまだまだ個人差が見られる。今後は、個人差を縮めながら、どの教科や場面においても自分の考えを伝えられるような児童の育成を目指していきたい。

（記入者　石木田　美保子）